

女子野球部でまちおこし

栗山高校が今春同好会

監督に元日本代表内定

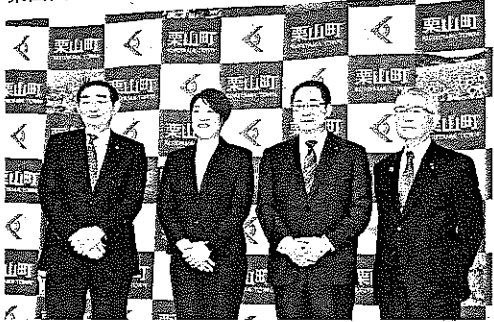
人口約1万1300人の栗山町にある栗山高校で、女子野球部を作ってまちおこしにつながるプロジェクトが進行している。生徒数の低迷に悩む中、同校は今春発足させる同好会の監督に女子野球の元日本代表を迎えることを決めた。高校女子硬式野球部が正式に誕生すれば道内で3校目、公立高では初めてとなる。

■W杯V5に貢献

「栗山は野球に熱意がこもったまち。栗山高校を日本一のチームにしたい」

町役場で昨年12月下旬に開かれた記者会見。新年度

栗山高等学校女子硬式野球 指導者就任記者



就任会見で笑顔を見せる金さん(左から2人目)ら(昨年12月、栗山町役場で)

に同好会として第一歩を踏み出すチームの監督に内定した金由起子さん(44)は、明るい表情を見せた。

金さんは天塩町出身。2008年に女子野球ワールドカップ(W杯)に内野手として出場し、初優勝を果たした。W杯は6大会に出場し、主力として5連覇に貢献するなど日本の女子野球界を引っ張ってきた。

同席した栗山町の佐々木学町長は「町民一丸となって支えていきたい」とエールを送った。

■栗山前監督が提案

「栗山高校に女子野球部を」。こんな声を上げたのは、同校出身で「南そらち

道新札幌にある。高校女子硬式野球部は、私立の札幌大駒高と駒大苫小牧高にあり、1997年の第1回全国選手権大会は5チームの出場だったが、徐々に出場校が増え、昨年開催された第25回大会には40チームが参加。決勝は初めて甲子園球場で行われた。



青年経済人研究会」の代表理事を務める塩見望さん(53)。名前が縁で栗山町民と交流している北海道日本ハムファイターズ前監督の栗山英樹さんと親しく、2人でまちおこしについて話し合った際、栗山さんから提案があったという。

同校は創立90年を超える道立の伝統校で、町唯一の高校だが、昨春の入学者は80人の定員に対して40人のみだった。近年は入学者が30、50人台で推移し、在校生は約120人。「将来の

存続が危ぶまれる公立高」(佐々木町長)の一つだ。母校の定員割れを目の当たりにしてきた塩見さんは20年2月、高校存続に向けて支援に動いている町に対して、研究会の仲間らとともに、町内外から生徒が集まるような女子野球部を創設するよう提案した。

塩見さんは同年10月、広島県の高尾などで女子野球部が地域を盛り上げていると聞き、独自に現地を視察した。商店街に野球部を応援する垂れ幕が掲げられ、部員が地域の祭りやごみ拾いなどに積極的に顔を出す姿を見て、思いを強くしたという。

■「学校活性化へ」

昨年7月には、町長や商工会議所会頭らでつくる女子硬式野球部設立準備委員会が発足。監督の人選や、学生寮の確保など創部に向けた協議を続けてきた。

準備委メンバーで「栗山高校を支える会」の早坂義幸会長(66)は「町内外から人が集まり、高校卒業後に

地元企業に就職してくれるとありがたい」とまちの活性化にも期待している。

栗山高の煙山訓教頭(56)は「同好会の設立は学校の活性化につながる。生徒や入学志願者が増えればいい」と話している。

女子野球部でまちおこし

栗山高校が今春同好会

監督に元日本代表内定

人口約1万1300人の栗山町にある栗山高校で、女子野球部を作ってまちおこしにつなげるプロジェクトが進行している。生徒数の低迷に悩む中、同校は今春発足させる同好会の監督に女子野球の元日本代表を迎えることを決めた。高校女子硬式野球部が正式に誕生すれば道内で3校目、公立高では初めてとなる。

■W杯V5に貢献

「栗山は野球に熱意がこもったまち。栗山高校を日本一のチームにしたい」町役場で昨年12月下旬に開かれた記者会見。新年度

に同好会として第一歩を踏み出すチームの監督に内定した金由起子さん(44)は、明るい表情を見せた。金さんは天塩町出身。2008年に女子野球ワールドカップ(W杯)に内野手として出場し、初優勝を果たした。W杯は6大会に出場し、主力として活躍に貢献するなど日本の女子野球界を引っ張ってきた。

同席した栗山町の佐々木学町長は「町民一人当たりに支えていきたい」とエールを送った。

栗山高等学校女子硬式野球 指導者就任記者:



就任会見で笑顔を見せる金さん(左から2人目)ら(昨年12月、栗山町役場で)

「栗山高校は女子野球部を創設する。こんなまちおこしを、同校出場で『まちおこし』を

道新札幌にある。大権たは、昨大会には初めて甲子園球場で行われた。高校女子硬式野球部内では、私立の陽高と駒大苫小牧高の1997年の第1回全国大会は5チームの出場校が増え、徐々に開催された第25回大会は40チームが参加。決勝は初めて甲子園球場で行われた。



青年経済人研究会」の代表理事を務める塩見望さん(53)。名前が縁で栗山町民と交流している北海道日本ハムファイターズ前監督の

栗山英樹さんと親しく、人まちおこしに力を入れている。塩見さんは、栗山町に

同校は、栗山町の女子野球部を創設する。こんなまちおこしを、同校出場で『まちおこし』を

「栗山高校は女子野球部を創設する。こんなまちおこしを、同校出場で『まちおこし』を

「栗山高校は女子野球部を創設する。こんなまちおこしを、同校出場で『まちおこし』を

「栗山高校は女子野球部を創設する。こんなまちおこしを、同校出場で『まちおこし』を

存続が危ぶまれる公立高」(佐々木町長)の一つだ。母校の定員割れを目の当たりにしてきた塩見さんは20年2月、高校存続に向けて支援に動いている町に対し、研究会の仲間らとともに、町内外から生徒が集まるような女子野球部を創設するよう提議した。

塩見さんは同年10月、広島県の高松などで女子野球部が地域を盛り上げていると聞き、独自に現地を視察した。商店街に野球部を応援する垂れ幕が掲げられ、部員が地域の祭りやイベントに積極的に顔を出す姿を見て、風を靡かせる